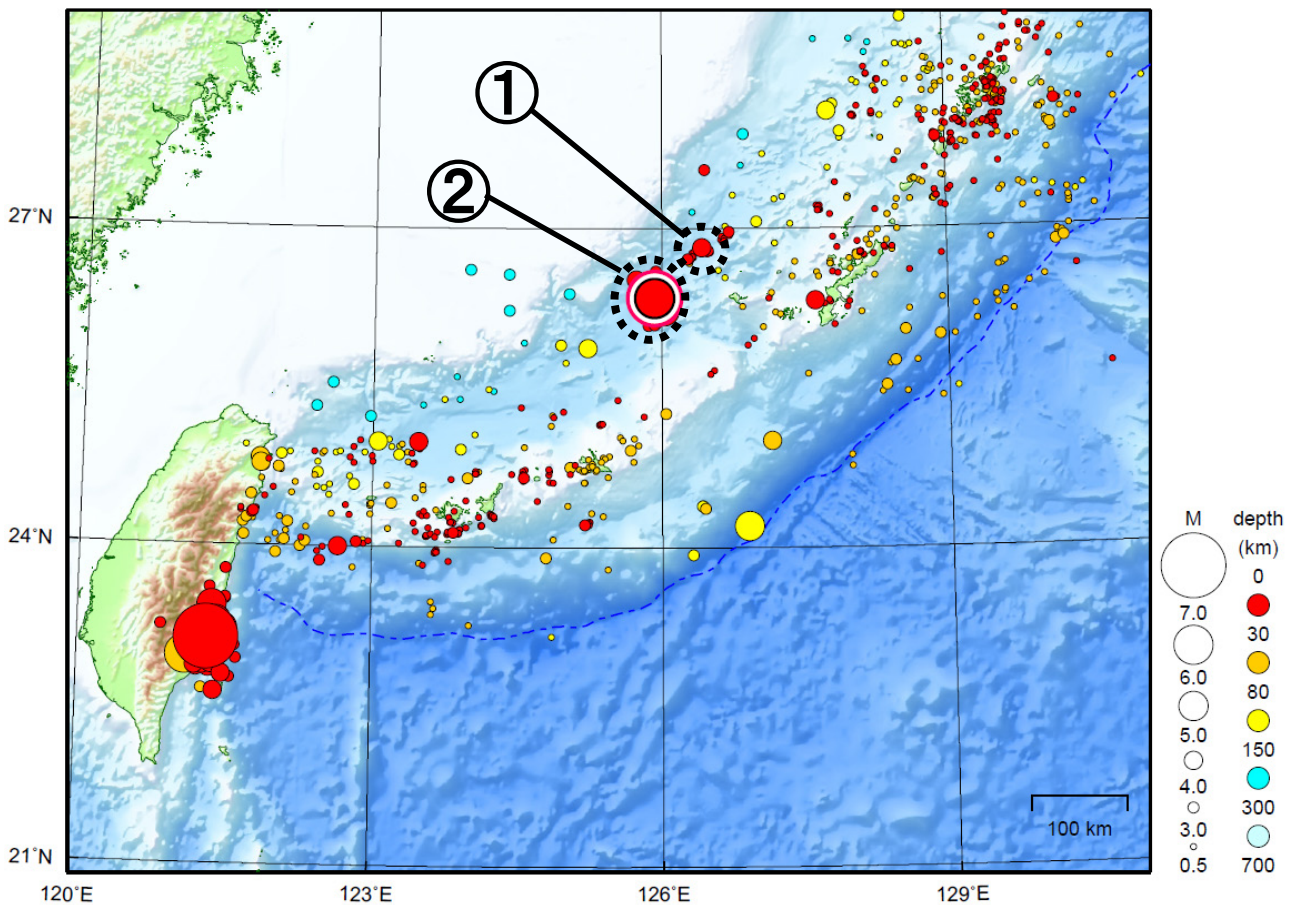


沖縄地方

2022/09/01 00:00 ~ 2022/09/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

- ① 沖縄本島北西沖（久米島の北西約 50km）では9月中に最大震度1以上を観測した地震が1回（震度1：1回）発生した。
- ② 9月18日17時09分に沖縄本島北西沖（久米島の西約 80km）でM6.0の地震（最大震度2）が発生した。また、同日19時05分にM5.7の地震（最大震度3）が発生した。沖縄本島北西沖（久米島の西約 80km）では、14日以降30日までに最大震度1以上を観測した地震が8回（震度3：1回、震度2：1回、震度1：6回）発生した。

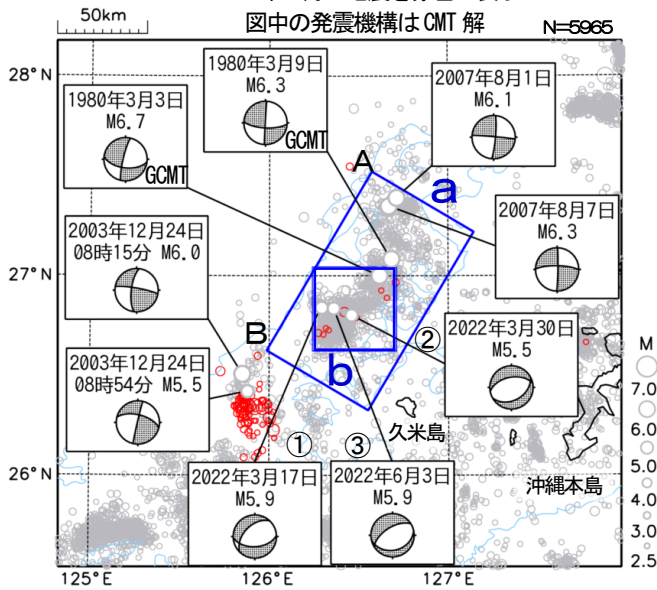
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

沖縄本島北西沖の地震活動（久米島の北西約50kmの地震活動）

震央分布図

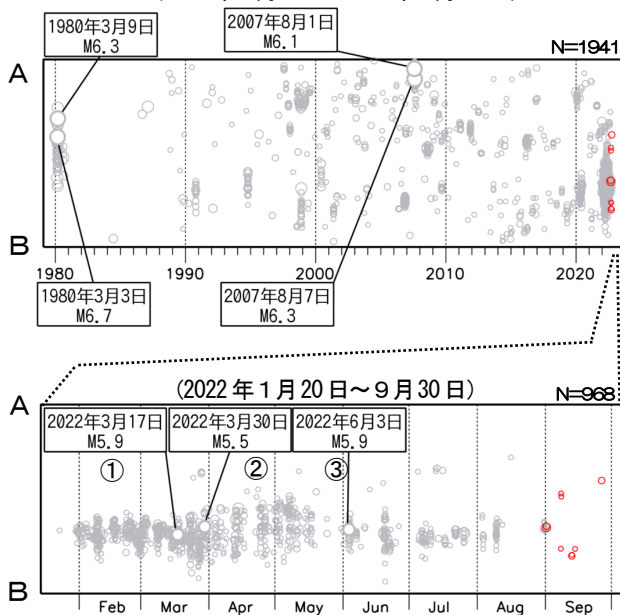
(1980年1月1日～2022年9月30日、
深さ0km～60km、M \geq 2.5)
2022年9月の地震を赤色で表示
図中の発震機構はCMT解



図中の水色の等値線は水深1500mを示す。
※1980年3月3日及び3月9日の地震の発震機構はGlobal CMT

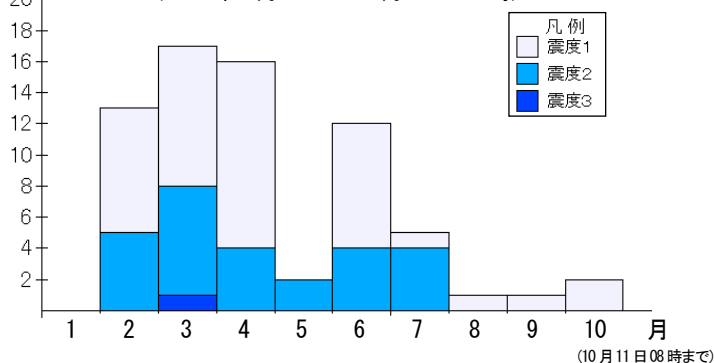
領域a内の時空間分布図 (A-B投影)

(1980年1月1日～2022年9月30日)



震度1以上の月別最大震度別地震回数図

(2022年1月30日～10月11日08時)



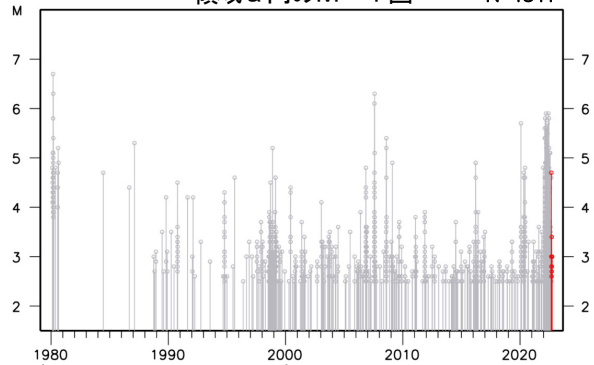
沖縄本島北西沖 (久米島の北西約50km) では、2022年1月30日から地震活動が活発になり、10月11日08時までに震度1以上を観測する地震が69回 (震度3: 1回、震度2: 26回、震度1: 42回) 発生している。この間、地震活動は消長を繰り返しながら継続しているものの、8月中旬以降は活動が落ち着きつつある。

活動の全期間を通じて、最大規模の地震は3月17日及び6月3日のM5.9の地震 (いずれも最大震度2、それぞれ図中①、③)、最大震度を観測した地震は3月30日のM5.5の地震 (最大震度3、図中②) であった。この地震活動は、沖縄トラフの活動で陸のプレート内で発生している。

1980年1月以降の活動をみると、今回の震央周辺 (領域a) では、M5.0以上を最大規模とした地震活動が時々みられる。1980年2月から3月にかけて活発化した際には、同年3月3日にM6.7の地震 (最大震度3) が発生した。

領域a内のM-T図

N=1941

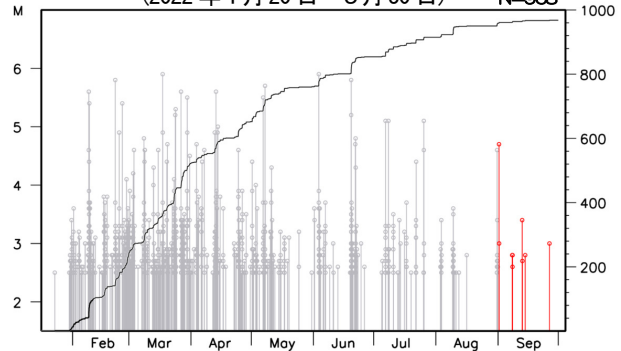


(この期間の検知能力は低い)

領域b内のM-T図及び回数積算図

(2022年1月20日～9月30日)

N=968



震度1以上の月別最大震度別回数表

(2022年1月30日～10月11日08時)

月別	最大震度別回数			震度1以上を観測した回数	
	震度1	震度2	震度3	回数	累計
1月30、31日	0	0	0	0	0
2月	8	5	0	13	13
3月	9	7	1	17	30
4月	12	4	0	16	46
5月	0	2	0	2	48
6月	8	4	0	12	60
7月	1	4	0	5	65
8月	1	0	0	1	66
9月	1	0	0	1	67
10月1日～11日08時	2	0	0	2	69
総計	42	26	1		69

9月18日 沖縄本島北西沖の地震(久米島の西約80kmの地震活動)

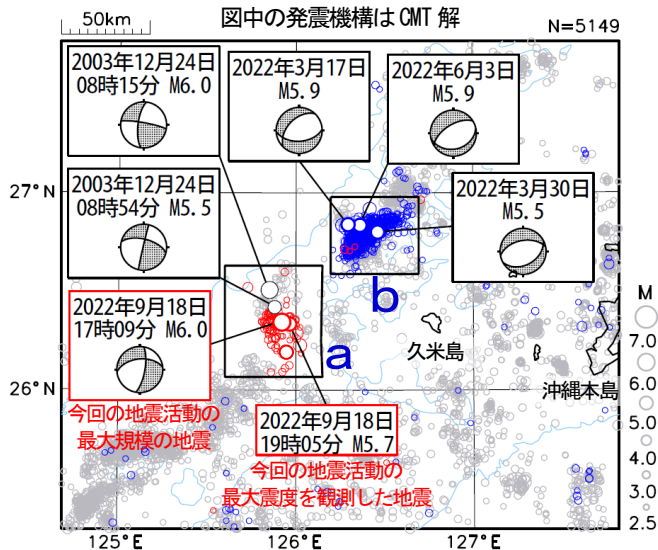
震央分布図

(2000年7月1日~2022年9月30日、
深さ0km~60km、 $M \geq 2.5$)

2022年1月30日以降の地震を青色で表示

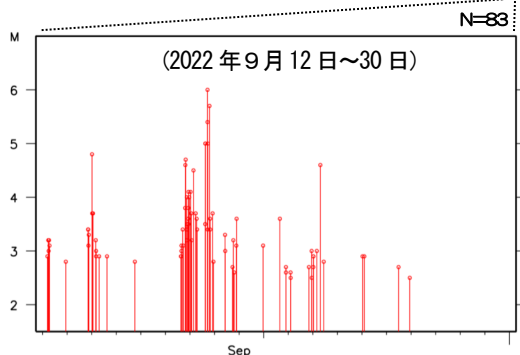
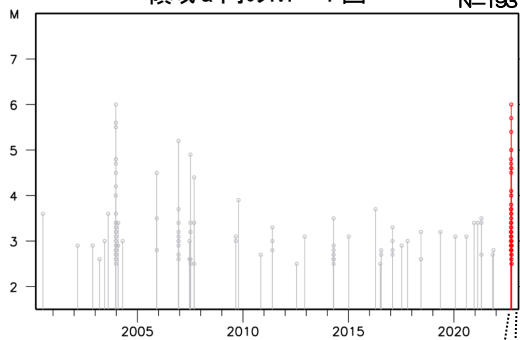
2022年9月12日以降の地震を赤色で表示

図中の発震機構はCMT解

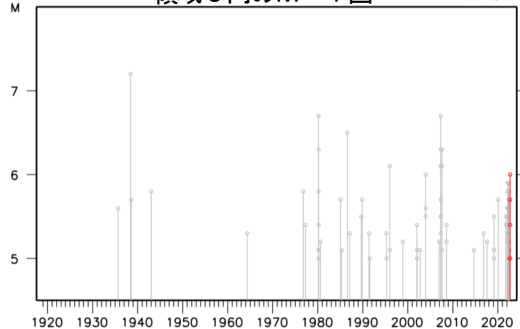


図中の水色の等値線は水深1500mを示す。

領域a内のM-T図



領域c内のM-T図



(この期間は検知能力が低い)

2022年9月18日17時09分に沖縄本島北西沖でM6.0の地震(最大震度2)が発生した。この地震の発震機構(CMT解)は、北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。また、この地震の震央付近(領域a)では、同日19時05分にM5.7の地震(最大震度3)が発生した。領域aでは、9月14日~10月11日08時まで震度1以上を観測する地震が8回(震度3:1回、震度2:1回、震度1:6回)発生した。この地震活動は、沖縄トラフの活動で陸のプレート内で発生した。

2000年7月以降の活動をみると、今回の震央付近(領域a)ではM5.0以上を最大規模とした地震活動が時々みられる。2003年12月24日の活動(最大規模M6.0、最大震度2)は、当日中にほぼ収まった。

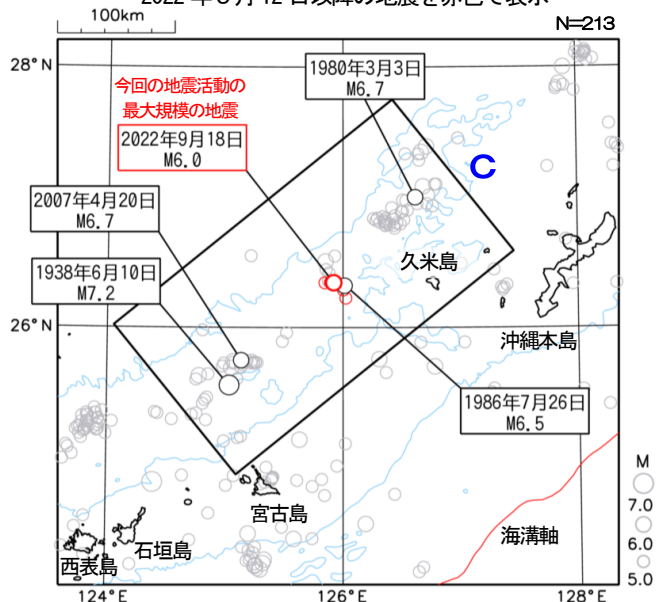
また、領域bでは2022年1月30日から地震活動が活発になり、10月11日08時まで震度1以上を観測する地震が69回発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)ではM6.0以上の地震が時々発生している。そのうち、1938年6月10日に発生したM7.2の地震(最大震度4)では、宮古島平良港で1.5m程度の津波が目撃されており、桟橋の流出などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

震央分布図

(1919年1月1日~2022年9月30日、
深さ0km~60km、 $M \geq 5.0$)

2022年9月12日以降の地震を赤色で表示



図中の水色の等値線は水深1500mを示す。